

# カラトイスカバチ

*Passaloeus koreanus* Tsuneki  
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

## 選定理由

今回の調査で新たに生息地が確認され、確認地点数が増えた。木造家屋の減少が本種衰退の原因とされているが、危機的状況に瀕しているとは言えないためランクダウン。

## 分 布

本州に分布。県内では、福井市町屋、開発、敦賀市常宮で採集記録があった。今回の調査では、福井市足羽山、東山公園と、越前町牛房ヶ平で新たに確認された。

## 種の特徴

体長5～6mmの小形の狩り蜂。近縁のワモンイスカバチとは、後頭部の形態や雄の触角の黒色斑紋の違いで区別される。朽木の虫孔や細い竹筒に巣を作り、1つの育室に30～40匹のアブラムシを狩り貯え、針葉樹の樹脂で部屋を仕切る。

## 生息を脅かす要因

木造家屋の減少が本種の衰亡の第一の要因とされる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）、室田ら（2009）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○										○

# フクイジガバチモドキ

*Trypoxylon ambigum* Tsuneki  
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

## 選定理由

今回の調査では確認できなかった。千葉県、埼玉県で減少が報告され、近隣では京都府で準絶滅危惧に指定される等地域的に減少していると考えられ、本県でも1972年以降確認記録がないことから本種の生息環境は悪化していると考えられる。

## 分 布

本州（埼玉県、千葉県、新潟県、富山県、福井県、京都府）に分布。県内では、大野市、鯖江市磯部、高浜町青葉山麓で過去に記録があるが、今回は確認できなかった。

## 種の特徴

小形で細長く、ホソジガバチモドキによく似る。詳細の生態は不明。細い竹筒に泥でしきりを作って営巣し、小型のクモ類を狩る。

## 生息を脅かす要因

薪積みや刈り取られたスキの髓孔など営巣基の激減と自然環境の悪化が脅威となっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○											○		○	

# シモヤマジガバチモドキ

*Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki  
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

過去に大野市、南越前町、若狭町の山地帯の6地点で記録があったが、今回は大野市内の1地点で確認されたのみ。山地に生息することから、危機的といえる環境変化はないと考えられるが、絶滅の恐れは依然高いと考えられ、絶滅危惧Ⅱ類のランクを維持。

## 分 布

北海道、本州に分布。県内では過去に大野市赤兎山、上秋生、荷暮、角野前坂、南越前町夜叉ヶ池、若狭町三十三間山で記録がある。今回、大野市平家平で新たに確認された。

## 種の特徴

雄は体長7mm、雌は9mm前後の黒色の小型種。脚には黄色部があり、触角間の隆起はコブ状で低い。頭楯前縁は2歯状。竹筒やその他の既存抗等を利用して巣を作り、泥で仕切った数個の独房を連ねる。幼虫の食べ物としてカニグモ類やハエトリグモ類を狩る。

## 生息を脅かす要因

山仕事の出作り小屋や藁葺きの人家等、本種の生息に適した環境が失われていくことが減少の原因。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、羽田ら（2002）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○								○	